

第55回 管工機材・設備総合展へ行ってきました！

7月25日、東京ビッグサイトにて開催の「第55回 管工機材・設備総合展」へ行ってきました。配管材料や継手類、工具、衛生陶器や給排水器具等の新商品が多数展示されておりました。いずれも、弊社が空調や衛生の工事・修理を行う上で欠かせないものばかりです。新商品や技術の知識を絶えず取り入れ、お客様により良い提案・設計ができるよう、今後も努めてまいります。



太陽光発電設備 2割に土砂災害リスク

全国の500kW以上の太陽光発電設備9250件（2020年時点）のうち、土砂災害（特別）警戒区域・土砂災害危険箇所・急傾斜地崩壊危険区域・地すべり防止区域のいずれかに、全体の18%にあたる1658箇所が立地していることが分かりました。中には、植林や排水設備の設置を自治体に指摘されたにも関わらず、十分に整備されていない施設も。農林水産省などによると、太陽光発電設備は森林伐採による保水力の低下に加え、パネルからの雨滴などにより地表面が浸食され、のり面の安定性が損なわれる恐れがあります。太陽光開発に絡み林地で発生した事故は、12年の固定価格買い取り制度開始後10年で少なくとも230件。15年には群馬県で施工不良により、のり面が崩壊し、家屋に土砂が流入しました。事業者による点検・管理、行政の監視強化など、防災対策が欠かせません。

太陽光発電設備で盗難急増

太陽光発電設備で電線が盗まれる被害が多発しています。銅の国際価格高騰により、銅線を高値で売却できるためです。住宅用に比べて圧倒的に銅線の使用量が多く、基本的に人通りの少ない場所に設置される野立ての産業用太陽光発電設備は、格好の標的です。昨年4月に群馬県太田市の「おおた発電所」が、長さ約2400m、重さ約7トンの銅線（計1300万円相当）が盗難に遭ったことを発表しました。この盗難により、おおた発電所の発電量は従来の6分の1程度にまで減少してしまい、復旧の目処も立っていません。銅線盗難は、他にも群馬県内だけで今年1～7月に487件、一昨年の栃木県では1～11月末に628件の被害が確認されています。被害に遭った場合の保険もありますが、まずは監視カメラや頑丈なフェンス、遠隔通知、赤外線センサー、音声や強い光による警報などの対策が欠かせません。



☀️ヨコレイ太陽光発電 今月の実績☀️

（期間：7/2～8/1）※（ ）内は前月の実績

- 発電した電気量：1216.2 kWh
（ 883.1 kWh）
- 東電への売電量：392.0 kWh
（ 224.0 kWh）
- 売電金額：14,504円
（ 8,288円）

■この期間の横浜市の天気概況 <気象庁HPより>

※（ ）内は前月の実績

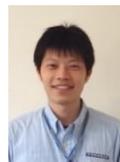
日照時間：278.0時間（149.0時間）

平均最高気温：32.9℃（27.2℃）

私たちが『ひまわり通信』を
担当しています



アゲタ



カサノ



イノウ



クロダ

(株)ヨコレイ 太陽光発電関連サイト

ひまわり発電所

<https://yokoray.co.jp/himawari>



ひまわり発電所

検索

0120-37-4501

（受付時間 9:00～18:00 土日祝日を除く）

※本紙の送付停止をご希望の方は、ご連絡ください※